

海域ムラユ世界に溶け込む華人

貞好康志

さだよし やすし / 神戸大学大学院、元 AA 研共同研究員

インドネシア華人研究を標榜しながら、筆者は
ながらくジャカルタの政治動向を横目で追いつつ、
社会調査の面ではジャワのある町にもつばら焦点
を当ててきた。ここ数年、スマトラ東岸沖合いに
広がるリアウ群島、なかでもシンガポールと海峡
を隔て目と鼻の先のピンタン島の港町タンジュン
ピナンで現地調査を行なう機会を得た。ここは
海域ムラユ世界のただなかである。ムラユとは英
語の Malay の語源となった現地語で、同名の古
代王国やその末裔の意識をもったエスニック・グ
ループを指す場合もある。しかし私のいう海域ム
ラユ世界とは、単にムラユ人（マレー人）を中心
とした歴史世界や生活世界を指すのではなく、マ
ラッカ海峡域に代表される島嶼部東南アジアの沿
岸部に住んだり、海を越えて島々を往来する多種
多様な人々が全体として作り上げている社会文化
空間をイメージした用語である。その様相はジャ

ワとは随分ちがう。華人コミュニティについても
然りである。

まず驚いたのは、タンジュンピナン市街から入
り江をはさんで対岸地区にある全 300 戸ほどの
華人集落（カンブン・チナ）が、杭上家屋の集まっ
た水上集落を成していることだ。漂海民として知
られるサマ人や海洋民族プギス人の水上集落はリ
アウ群島のあちこちでも目にしたが、華人の水上
集落を見たのは初めてだった。ジャワの各都市に
もチャイナタウンの原型となったカンブン・チナ
は古くからあるけれど、為政者の隔離措置によっ
て形成された面が強い。ここでは、他の民族集団
の集住地、例えば隣接するプギス人集落などと自
然に棲み分けつつ、漁業や海上運送業など生活
上の便宜に従って形作られた面の方が大きいよう
だ。現在のカンブン・チナは高齢者の世帯が多い。
今でも小舟を出して漁をしたり、裏手の土地で果

樹栽培をする者もいるが、隣接するバタム島（イ
ンドネシアとシンガポールが共同で工業団地を
作っている）やジャカルタ、シンガポールなどに
出稼した若年世代からの仕送りが地区の経済を
主に支えている。古い木造の家々に混じって、小
奇麗なモルタルの杭上家屋が増えつつあること、
また新旧問わずほとんどの家で中国式の祭壇を祀
り、戸口には天公（中国系の人々の多くが崇める
天の最高神。玉皇上帝ともいう）に祈るための線
香立てが備えられている光景が印象的だった。

華人とそれ以外の住民との関係の在り方も独特
である。ジャカルタやジャワでは「土着の民」を
意味するプリブミという呼称が、「よそ者」とされ
る華人と政治的に二項対立的な色彩を帯びて使わ
れてきた。リアウでは「ムラユ」がプリブミに相
当する言葉としても用いられている。チナとムラ
ユという分類の意識はたしかに存在するが、日常
の社会実態からみると、両者はジャワの華人とプ
リブミよりはるかに融和している。華人とムラユ
の商人が路傍に並んで腰かけ、海産物や野菜を
売っている朝市の光景は典型的だった（ジャワな
らば華人の店舗の軒先にジャワ人がゴザを敷いて
細々と商う）。また、カンブン・チナの裏手の中国
廟の門前で、椰子の実ジュースを売っている初老
のプギス人のアブさんと、筆者を案内してくれた
華人のジェミおじさんのやりとりが驚いた。両者
ともこなれた潮州語である。福建系華人のジェミ
さんが母語の福建語でなく、タンジュンピナンの
華人社会で優勢な潮州語を操るのはまだしも、プ
ギス人のアブさんも、30 年来華人と一緒に商売
する間に潮州語の会話をすっかりマスターしてし
まったのだという。

ジャワでは数世紀来人口的にも圧倒的なジャワ
人の社会・文化に華人が混淆し、インドネシア語
やジャワ語を母語とする現地生まれのクレオール
華人（プラナカン）が生み出されてきた。スハルト
体制期には、インドネシア社会と国家に華人が
「同化」することが政治的に求められ、華人側も
表面上それに応じた。他方、リアウでは「ムラユ」
とされる人々（狭義のムラユ人以外にプギス人や
フローレス人やパダン人やジャワ人であったりす
る）を含め、誰もが数世代遡れば「よそ者」であ
る。この華人は、誰か特定の他者に同化するの
でなく、あわあわとした海域ムラユ世界それ自体
の中に、他の人々ともども自然に溶け込んでいる
ように映る。ここでの人々の共生の在り方は、ス
ハルト体制期にもそれ以前からも、さほど変わり
なく続いてきたように思えてならない。



杭上家屋から成る
タンジュンピナンの華
人集落。



潮州語で歓談する
プギス人と福建系
華人の男性。



中国式祭具を備えた杭上家屋の入り口。



売り手にも買い手にも
華人とムラユ人が入り
混じる朝市の風景。



華人の水上集落で
遊ぶ近所のムラユ
人の子ら。

